

# 法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-29

## 司法省民刑第一八三号

---

(発行年 / Year)

1910

司法省帳第一八三號

衆議院回付民法中親族相續二篇修正ノ  
請願書内閣書記官長ヨリ轉送相成  
候間爲御老考別紙寫及同送候也

明治三十三年二月十三日

司法大臣清浦奎吉印

法典調査會總裁信高野山縣有朋殿

民法中親族相續ニ編修正ノ請願

伏テ惟ルニ明治二十三年煥發ノ教育勅語ハ  
畏クモ忠孝建國ノ大義文物制度ノ淵源ヲ闡  
明セシ閱麟以未國粹ノ成文ニシテ我國民ノ  
春々服膺須臾モ不可離モノナリ蓋シ各邦皆  
其特質アリ乃皇國ハ忠孝以テ國ヲ建テ歐州  
各邦ハ名利以テ俗ヲ成ス故ニ齊ク身矢石ヲ  
冒シ行危機ノ際ニ處スル我ニ在テハ忠孝ノ  
爲ニシテ彼ニ於テハ名利ノ爲ナリ彼ノ海行  
カハ水清ク屍云々ノ古歌ハ我者誠ヲ表彰セ  
シモノニシテ此心ハ獨リ我日本臣民其美ヲ  
擅ニスル所莫奪相踵キ革命恒ナク三諫シテ

法典調查會

去ルカ如キ外國人ノ窺知スヘキ所ニ非ス他  
ナシ彼我建國ノ根本主義相同シカウサレハ  
ナリ夫レ然リ我國法ノ苟クモ倫常及家制ノ  
秩序ニ関スルモノハ必スヤ教育勅語ノ精神  
ニ基カサルヘカウサルコト其義炳トシテ日  
星ノ如シ而シテ彼ノ第十二回帝國議會ニ於  
テ議決シ昨年七月ヨリ施行ヒラレタル親族  
相續ニ締ル其大綱全ク此精神ニ矛盾シ倫常  
及家制ノ秩序ヲ破壞スルモノアリ且夫レ國  
家ノ社會ニ於ケルハ猶ホ家屋ノ基礎ニ於ケ  
ルカ如シ基礎苟モ堅宇ヲサレハ宏厦大構  
モ崩壞立トコ口ニ至ルヘキハ理ノ最モ親易  
キ所ナリ而シテ社會倫常ノ淵源全ク家制ノ

秩序ニ富スル我國ニ在リテ此秩序一タヒ破  
レム手建國ノ根本主義亦勳勳ヲ免レヌ抑建  
國以來數千年ノ久シキ幾多ノ政變ヲ經タル  
ニ拘ハラヌ尊嚴ノ國体尙モ毀ルル所ナク陛  
々トシテ今日ノ盛運ヲ致セルハ社會ノ倚常  
家制ノ秩序確守トシテ勤檢セサリシニ由テ  
スムハアラス然ルニ一朝根本主義全ク異ナ  
ル歐米ノ法律ヲ擡倣スルノ極我國有特美ア  
ル社會ノ倚常家制ノ秩序ヲ破壞セハ我尊嚴  
ナル國体豈獨リ完キヲ得ムヤ思テ此ニ至レ  
ハ悻然トシテ寒心セサル能ハス

始メ政府ノ法典編纂ニ銳意スルヤ識者皆其  
慎重周密真ニ我國情民俗ト相合フモノヲ制

法典調查會

定セムコトヲ望ミ一ニ控範ヲ外國ニ仰クノ  
極メテ不利有害ナルユトテ痛論シタルモ條  
約改正ニ急ナルノ餘法典ノ全備ヲ以テ緊急  
ノ要件ナリト稱シ漸ク時日ノ切迫スルニ及  
ンテ又其立法ノ精神適否ヲ審ニスルニ遑ア  
ラカリシカ如シ法典調査會ハ海内有數ノ法  
律家ヨリ成リ國ヨリ一代ノ選タリト雖モ多  
クハ專業ノ傍ラ是ニ從事スルモノニシテ其  
時間既ニ乏シク而シテ審理稟定ヲ要スルノ  
事項ハ則チ多ク山ノ如シ委實精勵セサルニ  
非サルモ蓋ソ得テ其善美憾ナキヲ望ムヘテ  
ニヤ調査會ニシテ既ニ然リ況ンヤ議會才ヤ  
千百ノ條項ハ一場ノ日程ニシテ忽チ可決シ

忽ク施行セラレタルモノ是レ實ニ民法制定ノ真相ナリ宜ナル哉其規スル所多少舊習俗ヲ斟酌シタルノ跡ナキニ非サルモ其精神骨子ハ畢竟個人ノ利益ヲ保護スルニ存シ我國情國体ト正ニ其基礎ヲ置ニスルヤ思フニ勢利ニ趨クノ人情ヲ輕クテ如斯ノ法律ト相從ハシム恐クハ靡耻セヨリシテ益衰頹シ侏常セヨリシテ愈弛墮シ皇國ノ正氣銷沈シテ又救フ可ラサルニ至ラシ現ニ該法實施以來日尚不淺キニ拘ハラヌ或ハ子其父ニ倣ルモノアリ或ハ妻其夫ト爭フモノアリ法律ノ許ス所ヲ以テ得々トシテ愧ツル色ナク道徳仁義ヲシテ將ニ地ヲ掃ハシメトス是豈熟視スハケンヤ

法典編查會

夫レ君臣ノ大義一家ノ倫常我國ノ以テ諸外國ト異ナルハ唯忠孝ノ二字ニ在テ存ス國体此ニ依テ安ク人心此ニ依テ善ナリ今則テ故ナク外國ノ法律ニ模倣シテ我國家社會ノ基礎ヲ覆サムトスルニ至ル新シテ忍フ可ラサルナリ伏シテ望ムヲクハ更ニ速ニ該法修正ニ着手セラレ我國體國情ニ鑑ヒテ先ツ立法ノ精神主義ヨリ改メ以テ逐次凡百ノ條項ニ及ホシ帝國ノ爲メニ完全ナル民法ヲ制定セラレムコトヲ謹テ請願仕候也

明治三十三年十二月五日

光緒  
外三自拾尼名

法東調查會